



広報委員が聞く！

# 町民インタビュー



「誘われたら断らないと決めてから」

わたなべ ひろまさ  
渡邊 博正さん（東町）



Q 退職から2年、毎日の生活は？

20年以上住んでいる比布なのに、愛犬と散歩していくても、親しく挨拶を交わせる人がほぼいないことに愕然。「やりたがり」という元来の性格もあり、何でも誘われたら断らないと決めてからは、活動の範囲が広がり、ほんの少しですが町民になりつつあるような気がします。

Q 今後の目標は？

物価高対策として、家周りをほぼ畠にすることです。食べ物を育てるのは本当に楽しい。今後は育てた野菜を無駄にしない「おやじ料理」を習得したいです。もう一つ、やりたいことがたくさんあるため、すべてに中途半端です。これを何とかしたいです。

Q 議会に期待することは？

資源ゴミ回収の仕事を始めて、これまでの自分のゴミ出しを大いに反省しました。ルール徹底の工夫が必要かと思います。もう一点、冬の歩道の除雪について、車生活では気づきませんが、歩くのが大変です。子どもさんや年配の方が安全に歩けるように皆さんのが少しでも改善していただければと思います。

（インタビュアー：遠藤 ハル子）

「子どもたちの魅力を感じる日々」

きむら のぶあき  
木村 宣昭さん（寿町）



Q 比布町の子どもたちの印象は？

比布町の子どもたちは、みんなで一緒に行動する姿がとても印象的です。登下校の際には、自然に声を掛け合い、挨拶をしてくれます。

上級生が下級生を気遣う様子もよく見られ、そうした光景が比布町の子どもたちの大きな魅力だと思います。

また、先生方も朝早くから校門に立ち、子どもたちに声をかけながら安全を見守り、一生懸命取り組んでいることが、子どもたちの健やかな成長につながっていると感じます。

Q これから挑戦したいことは？

元気な間は、できるだけ自分のことは自分でできる生活を続けたいと思います。

近くの病院へ自分で通ったり、短い距離であれば運転を続けたりしながら、住み慣れた町で安心して暮らしていきたいです。

Q 議会に期待することは？

いつも議会だよりを読んでいます。

議会の運営方法が複雑だと感じることがあります。運営が分かりやすく、住民が身近に感じられる議会であってほしいです。

（インタビュアー：佐藤 良彦）

## 編集後記



10月27日から3泊4日の日程で、道外研修の視察場所である金沢市に伺ってきました。

自分にとつて2度目の訪問である社会福祉法人佛子園は、障がいのある方々と高齢者、子どもたち、大学生が1つの町内で「じゅまぜ」

で生活されていて、無料の温泉を通して町民の皆さんと素晴らしい環境を創出されています。障がいのある方が持つエネルギーは高齢者の認知症を改善したり、研修を受けていた我々の会場に飛び入り参加してきて一人一人に握手やハグを求めて来て、場を和ませたり笑わせてくれたりと圧倒的な存在感を示してくれました。

我が比布町でも「じゅまぜ」のまちづくりが出来たら、どんなに素晴らしいだろうと感じさせてくれました。

町内に住まわれている障がいのある方々と高齢者、子どもたちを町内で守るのは当然な事だと再認識させてくれた研修でした。

（佐藤 良彦）

\*議会広報特別委員会\*

委員長 副委員長 委員  
谷口 大熊 遠藤ハ 遠藤佐 佐藤植  
雅勝 幸子 ル子 良浩 一